

第5回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会 合同部会

日時：平成27年2月13日（金）18:00～19:00

場所：日田市役所7階 大会議室

次第

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 報告
 - (1) パブリックコメントについて
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

意見交換

部会長（菅原部会長）

現在の事務局説明やこれまでの議論を踏まえ、何か意見があればお願いしたい。個人的には、これまでの部会で議論した内容が良くまとまっていると思う。特に、林業咸宜園の構想は大事にしてもらいたい。

部会員

ビジョンには沢山の内容が盛り込まれているので、今後はこれを実行に移すことが重要だ。沢山ある林業の課題を1つ1つクリアしていく必要がある。

部会員

森林組合としては、パブリックコメントにあったようにスギ花粉に対応した樹種の植林などにも対応していきたい。ビジョンについては、いかに実行するかが大切だ。

部会員

販路・販売機能の強化の箇所、中国・韓国への製品の輸出についての記載は必要ないのか。伐期に入って蓄積もあるが、これからの素材販売については少子高齢化の中で住宅需要は縮小しているので、外に出していくことが必要だ。

事務局

今の意見については、ビジョン 40 ページ、②日田材の需要拡大・販売体制の強化の欄に「今後、需要拡大が見込める韓国、中国などへの輸出促進を図ります。」と記載し対応している。

部会員

作業者の高齢化が大きな課題になっている。川上においては厳しい状況にある。雇用の改善を図らなければ、市場に材が流れない。森林環境教育、産業観光においては、以前「きこり体験ツアー」を実施した。80年生の木を素人の方に実際にチェーンソーで伐採してもらった。日田市と一緒に実施した。地域でしか取れない山菜料理を出したり、シイタケの駒うち体験なども実施した。福岡から女性 20 名の参加があったが、皆感動していた。そのような体験ツアーも良いと思う。

部会員

日田林工は生徒を育成する立場にあり、地元から期待されているが、まだそれに十分答えてはいないと思う。生徒が高性能林業機械の講習会への参加や、映画ウッドジョブの鑑賞

などで林業に興味を持つ生徒もいる。沢山の経験を与えることが重要だろう。現在、林工では西部振興局と連携してインターンシップを計画している。数名でも市内の林業系の企業に派遣して、楽しさ、厳しさについて学んで欲しいと思っている。

部会員

一部表現など細かい部分の修正箇所はあるが、ビジョン全体としては、森林・林業・木材産業の町として色濃い内容になっていると思う。

部会員

ビジョンの中身はこれで良いと思うので、後は「実行」が一番大切だ。日田市は、森林・木材利用については、全国の中でも随分進んでいると思う。この取組をわかりやすく、インターネットなどを利用して面白く伝え、一般の人を巻き込むことが大切だ。そのため、例えば、ビジョンをマンガ形式で子供にもわかりやすく伝えるなどの工夫が必要かもしれない。

部会員

市として幅広いビジョンを出そうとしている姿勢はすばらしい。県下の市町村をみても、地域の課題をここまで網羅して解決の方向性を検討しているところはめずらしい。この内容がうまい形で発信されたら良いと思う。

部会員

CLTについては、国が音頭を取って進めているが、そのような事業は全国各地で同じ取組がなされ、地域性がなくなってしまうのが実情だ。53 ページに産業観光のツアー例が掲載されているが、日田は木材集積地であるので、日田の特色をあらゆる無垢の木材に特化していく必要があるのではないか。無垢材で差別化を図るという記載が必要だ。ただし、無垢材の扱いは難しいので、自然乾燥するようなスペースを設け、アメリカのような車で回れば材が購入できるような仕組みを作ってほしい。特色ある材をつくるということをPRしてほしい。無垢材は絶対だ。これだけの大径木がそろう地域は他にない。

部会員

ビジョンをどのようなタイミング、スケジュールで実行していくかが重要になってくる。4月以降、推進委員会が設置されるので、ある程度期間を区切って実行して欲しい。何か1つでも成功して、全国のモデルになってもらいたい。C材については木質バイオマスの燃料としての利用も増えており、それに押されて材の単価が上がっている。原料高の製品安という状態になっている。製品の売り先については、国外も視野に入れる必要がでてきた。

単なる素材の輸出と異なり、製品輸出には困難が伴うが、その当たりの状況もきちんと把握して対応してもらいたい。

部会員

ビジョンの内容は良いと思うが、部会に家具関連のメンバーがないのは残念だった。住宅用の製品は頭打ちで、CLT、海外展開という方向性しかないが、大川であれば福岡県産材を使った家具の取組などがある。日田の場合、安く仕入れて安く売るといったものしかないような気がしている。スギ、ヒノキであってもデザイン性が高く良いものを作るよう働きかけをしてもらいたい。そうすれば、製材の立場では、どのような材なら使ってもらえるかなど考えていける。家具の方に地元の材を使ってもらいたいと思う。

部会員

木材利活用アカデミーの中で、建築士や建設業者の育成が盛り込まれているが、大型建築に限定しているのはどうかと思う。伝統工法ができる設計士や技術者も一緒に育てることを記載してほしい。昔の建物は曲がり材をつかって組立している。現在の直材だけでなく、様々な材が使える技術の伝承も重要だ。51ページの担い手育成・確保については、最終的には定着が目標だが、まずは日田に来てもらうことが大事だ。そのため、記載方法に工夫が必要だろう。ビジョンの推進体制の記述はあっさりし過ぎている。

部会員

35ページの災害に強い森林づくりの箇所、「潜在自然植生を考慮した」との記載があるが、その土地の潜在植生をきちんと把握できるのか、広葉樹への誘導とあるが、広葉樹がその土地にあっているかどうかということの保証は誰がするのか。樹種選定は誰が行うのかの記載がない。広葉樹に誘導するためには、森林組合のような「林業技術」に長けた人材だけを育成するのではなく、自然科学的な視点で植物のことが分かる人材の育成も重要だ。

事務局

該当箇所については、県の森林づくりビジョンに同様の記述があったので、当ビジョンにも記載した。広葉樹への誘導については、不確定な要素が多いためまずは調査研究が必要だと認識している。その記載がなかったので、研究をしながら手法を確立していくというように内容に修正したい。

部会長

日田では森林・林業を生業にしている人が多いが、最近「基幹産業」という言葉が上っ面に聞こえる。当事者があきらめに近い感情があるのかもしれない。共同販売など、実際に

取り組むとなると難しいこともある。その難しさをきちんと認識し、それぞれが努力する必要がある。実行する際は、言葉が一人歩きすることは避けなければいけない。ここに集まる部会員のみなさんが市に要望を出していくことも重要だろう。山の作業者を確保することが何よりもの原点だ。日田の人たちが日田に残るような形を作っていくことが重要だ。

部会員

ビジョンの中でも優先順位がある。人材育成など、すぐにできることに取りかかるべきだ。

事務局

平成5年の林業構想にも携わったが、それから20年、構想に沿って様々な事業を実施してきたが、その方向性は間違えていなかったと思っている。新しいビジョンについては、新構想を踏まえてのビジョンである。残された課題には引き続き対応していきたい。平成3年の台風災害の後、かなり広葉樹を植えてきた。20年経て、どの樹種が土地に合っていたかの検証などもできるのではないかな。

部会員

広葉樹への誘導が重点施策になっているが、広葉樹の利活用については何か考えているのか。本来、収益になるスギ・ヒノキ林を収益のない広葉樹に変えるとなると問題もでてくるのではないかな。

部会長

何かの利用方法はいるだろう。

事務局

広葉樹への誘導は環境林への誘導を目指している。本来植えるべき所ではないところにまでスギ・ヒノキを植えていることが、災害の要因の1つになっている。スギ・ヒノキが適木ではない箇所については、環境林、広葉樹への誘導を図るという意図で記載している。経済林として考える場合、所有者の意向を十分に踏まえる必要がある。大分県では、経済林、環境林のゾーニングに取りかかっているという話も聞いたので、その結果なども踏まえながら、広葉樹が相応しい箇所については誘導を図るということにしている。現段階では、誘導した広葉樹を伐採して利活用するというイメージは持っていない。

部会長

他に意見がないようなら事務局から事務連絡等をお願いしたい。

事務局

ビジョンについては、平成5年に新日田林業構想から20年、多くの課題が積み残されている。また、ビジョンを作成するにあたって、新たな課題も見えてきた。ビジョン作成はゴールではなくスタートだ。今後、ビジョンⅣ章にも記載した通り、推進委員会を設置して推進状況を検証していきたい。今後の取組についても皆様のご協力をお願いしたい。5回にわたり皆様には参加・ご議論いただき心より感謝申し上げます。ありがとうございました。